



関西学院交響楽団
第50回記念定期演奏会 昭和52年12月18日
神戸国際会館

楽団員名簿	
顧問 (経済学部教授) 高橋 英三 (特任) 小寺 武四郎 (特任) 主任指揮者 (文学部助教授) 宇生 裕律子 (経済学部助任中) コンサート・マスター (経済学部助任中)	小寺 武四郎 藤 謙也 岩井 健次 上村 壽彦
Violin 小寺 武四郎 (特任) 高橋 英三 (特任) 宇生 裕律子 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任) 小寺 武四郎 (特任) 高橋 英三 (特任) 宇生 裕律子 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任)	中野 英三 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任) 小寺 武四郎 (特任) 高橋 英三 (特任) 宇生 裕律子 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任)
役員名簿	
会長 高橋 英三 副会長 宇生 裕律子 幹事 藤 謙也 会計 岩井 健次 庶務 上村 壽彦	顧問 高橋 英三 主任指揮者 小寺 武四郎 副指揮者 藤 謙也 指揮者 岩井 健次 コンサート・マスター 上村 壽彦

第50回定期演奏会の
団員名簿

第60回定期演奏会の
団員名簿

第60回記念定期演奏会
関西学院交響楽団
神戸文化ホール(大)
12/22(水)午後10時開演-V600(全席指定)
チケット代金1,000円

楽団員名簿	
名譽顧問 (経済学部名誉教授) 顧問 (社会学部教授) 学生指揮者 (経済学部助任中)	小寺 武四郎 藤中 謙夫 守谷 祐一
Violin 高橋 英三 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任) 小寺 武四郎 (特任) 高橋 英三 (特任) 宇生 裕律子 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任)	中野 英三 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任) 小寺 武四郎 (特任) 高橋 英三 (特任) 宇生 裕律子 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任)
Viola 高橋 英三 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任) 小寺 武四郎 (特任) 高橋 英三 (特任) 宇生 裕律子 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任)	中野 英三 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任) 小寺 武四郎 (特任) 高橋 英三 (特任) 宇生 裕律子 (特任) 藤 謙也 (特任) 岩井 健次 (特任) 上村 壽彦 (特任)



第60回 記念定期演奏会 1982. 12. 22 関西学院交響楽団 神戸文化ホール(大)

第62回(創部70周年記念)



1983年12月13日
ザ・シンフォニーホール
ラヴェル
亡き王女のためのパヴァーヌ
ドヴォルジャーク チェロ協奏曲
ストラヴィンスキー
バレエ組曲「火の鳥」(1945年版)
指揮：堤 俊作・芦生幸一
独奏：竹内良治

第63回



1984年6月23日
神戸文化ホール(大)
フンバーディング
歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲
ファリャ
バレエ音楽「三角帽子」第2幕
ベートーヴェン
交響曲第3番「英雄」
指揮：堤 俊作・其浦宏幸

第64回



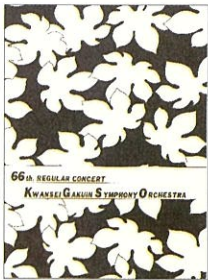
1984年12月23日
神戸文化ホール(大)
ラヴェル 古風なメヌエット
ティペット 組曲ニ長調(関西初演)
(チャールズ皇太子の誕生日のための)
ブラームス 交響曲第4番
指揮：湯浅卓雄・其浦宏幸

第65回



1985年6月18日
神戸文化ホール(大)
ブラームス 大学祝典序曲
スメタナ 連作交響詩「わが祖国」より
「シャルカ」「ブランニク」
ドヴォルジャーク
交響曲第9番「新世界より」
指揮：堤 俊作・杉原 直

第66回



1985年12月19日
神戸文化ホール(大)
ブラームス 交響曲第3番
フォーレ
組曲「ペレアスとメリザンド」
レスピーギ 交響詩「ローマの松」
指揮：大友直人・杉原 直

第67回



1986年6月15日
尼崎アルカイクホール
ウェーバー
歌劇「魔弾の射手」序曲
シベリウス 組曲「カレリア」
チャイコフスキー 交響曲第4番
指揮：大友直人・中村晃之

第68回



1986年12月21日
神戸文化ホール(大)
リスト 交響詩「前奏曲」
ベートーヴェン
交響曲第9番「合唱付き」
独唱：
溝口満知子(Sop) 荒田祐子(Alt)
山本裕之(Ten) 三室 堯(Bar)
合唱：枚方フロイデ合唱団
指揮：湯浅卓雄・中村晃之

第69回



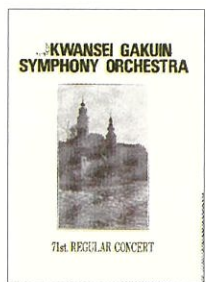
1987年6月26日
神戸文化ホール(大)
チャイコフスキー
幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
シューベルト
交響曲第8番「未完成」
ドヴォルジャーク 交響曲第8番
指揮：佐渡 裕・吉田 徹

第70回記念



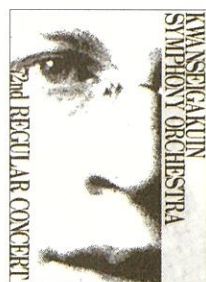
1987年12月22日
ザ・シンフォニーホール
ベートーヴェン
歌劇「フィデリオ」序曲
プーランク バレエ組曲「牝鹿」
チャイコフスキー
交響曲第6番「悲愴」
指揮：湯浅卓雄・吉田 徹

第71回



1988年6月21日
西宮市民会館・アミティホール
メンデルスゾーン
「ルイ・プラス」序曲
スメタナ
連作交響詩「我が祖国」より
「モルダウ」「ボヘミアの森と草原より」
ブラームス 交響曲第2番
指揮：大友直人・二瓶竜史

第72回



1988年12月13日
神戸文化ホール(大)
サン＝サーンス 英雄行進曲
コーブランド
バレエ組曲「ロデオ」
プロコフィエフ
交響曲第7番「青春」
指揮：湯浅卓雄・二瓶竜史

第73回



1989年6月18日
神戸文化ホール(大)
エロール 歌劇「ザンパ」序曲
シベリウス 交響曲第7番
ベートーヴェン
交響曲第3番「英雄」
指揮：現田茂夫・毛利秀明

創部 70 周年記念・第 62 回定期演奏会
 1983 年 12 月 13 日 於：ザ・シンフォニーホール

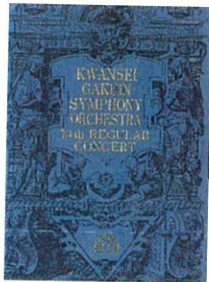


団員名簿

<p>大友 康雄 (経済学部楽教員)</p> <p>副 島 田 隆 (経済学部教員)</p> <p>常 島 隆 孝 (経済学部教員)</p> <p>副学長 佐藤 孝 (経済学部教員)</p>	<p>小寺 武四郎</p> <p>基 小 園 典</p> <p>学 法 院 明</p> <p>吉 田 雄</p> <p>二 瓶 敏 史</p>
<p>Violin</p> <p>第一 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第二 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第三 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第四 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第五 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第六 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第七 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第八 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第九 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第十 藤田 孝 (経済学部教員)</p>	<p>Violoncello</p> <p>第一 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第二 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第三 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第四 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第五 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第六 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第七 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第八 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第九 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第十 藤田 孝 (経済学部教員)</p>
<p>Viola</p> <p>第一 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第二 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第三 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第四 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第五 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第六 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第七 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第八 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第九 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第十 藤田 孝 (経済学部教員)</p>	<p>Contra Bass</p> <p>第一 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第二 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第三 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第四 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第五 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第六 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第七 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第八 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第九 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第十 藤田 孝 (経済学部教員)</p>
<p>Flute</p> <p>第一 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第二 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第三 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第四 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第五 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第六 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第七 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第八 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第九 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第十 藤田 孝 (経済学部教員)</p>	<p>Clarinet</p> <p>第一 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第二 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第三 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第四 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第五 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第六 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第七 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第八 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第九 藤田 孝 (経済学部教員)</p> <p>第十 藤田 孝 (経済学部教員)</p>

第 70 回記念定期演奏会
 1987 年 12 月 22 日
 於：ザ・シンフォニーホール

第74回



1989年12月24日
神戸文化ホール(大)

ドリーブ
バレエ組曲「コッペリア」より
モーツァルト 交響曲第29番
マーラー
交響曲第1番「巨人」
指揮：湯浅卓雄・毛利秀明

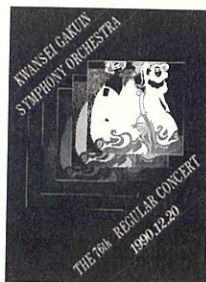
第75回



1990年6月29日
神戸文化ホール(大)

ヴェルディ
歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲
ドビュッシー 小組曲
ブラームス 交響曲第1番
指揮：岡田良機・稲田丈二

第76回



1990年12月20日
神戸文化ホール(大)

ワーグナー
歌劇「タンホイザー」序曲
ハチャトゥリヤン
組曲「仮面舞踏会」
シベリウス 交響曲第2番
指揮：湯浅卓雄・稲田丈二

第77回



1991年7月3日
西宮市民会館アミティホール

デュカース
交響詩「魔法使いの弟子」
メンデルスゾーン
劇音楽「真夏の夜の夢」より
ドヴォルジャーク 交響曲第8番
指揮：田中一嘉・久保秀彰

第78回



1992年1月14日
ザ・シンフォニーホール

シュトラウス ドン・ファン
カバレフスキー
組曲「道化師」より
プロコフィエフ 交響曲第5番
指揮：現田茂夫・久保秀彰

第79回



1992年6月28日
西宮市民会館アミティホール

芥川也寸志
交響管弦楽のための音楽 (1950)
グリーグ
「ペールギュント」第1組曲
ニールセン
交響曲第2番「四つの気質」
指揮：岡本和之・杉本 賢

第80回記念(創部80周年)



1993年1月24日
神戸文化ホール(大)

チャイコフスキー
幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
ファリヤ
バレエ音楽「三角帽子」第2幕
ベルリオーズ 幻想交響曲
指揮：現田茂夫・杉本 賢

第81回



1993年6月25日
西宮市民会館アミティホール

チャイコフスキー イタリア奇奏曲
チャイコフスキー
弦楽合奏のセレナード
ブラームス 交響曲第4番
指揮：田中一嘉・樋口 博

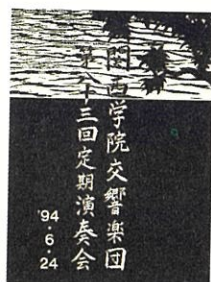
第82回



1993年12月10日
尼崎アルカイクホール

ロッシーニ
「セビーリヤの理髪師」序曲
フォーレ
組曲「ペレアスとメリザンド」
ショスタコーヴィチ 交響曲第5番
指揮：現田茂夫・樋口 博

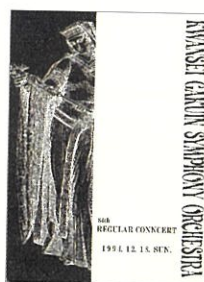
第83回



1994年6月24日
西宮市民会館アミティホール

グリンカ
歌劇「ルスランとリユドミラ」序曲
ドビュッシー 小組曲
シューマン 交響曲第2番
指揮：田中一嘉・本石智弘

第84回



1994年12月18日
神戸文化ホール(大)

エロール 歌劇「ザンバ」序曲
グノー
歌劇「ファウスト」よりバレエ音楽
チャイコフスキー
交響曲第5番
指揮：藏野雅彦・本石智弘

第85回



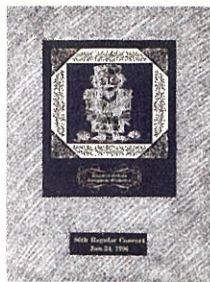
1995年6月28日
尼崎アルカイクホール

バーンスタイン
喜歌劇「キャンディード」序曲
ドリーブ バレエ音楽「シルヴィア」
ドヴォルジャーク 交響曲第8番
指揮：藤崎 凡



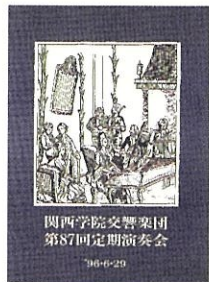
関西学院交響楽団 第80回記念定期演奏会 1993年1月24日 於:神戸文化ホール

第86回



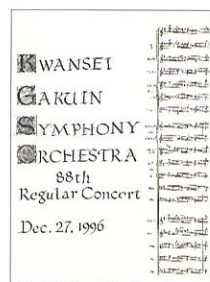
1996年1月24日
尼崎アルカイクホール
.....
チャイコフスキー
組曲「くるみ割り人形」
ラフマニノフ
交響曲第2番
.....
指揮：田中一嘉・江嶋純吉

第87回



1996年6月29日
尼崎アルカイクホール
.....
ドヴォルジャーク 序曲「謝肉祭」
シベリウス
組曲「ペレアスとメリザンド」
ブラームス 交響曲第2番
.....
指揮：竹本泰蔵・渡辺正樹

第88回



1996年12月27日
神戸文化ホール(大)
.....
サン＝サーンス
歌劇「サムソンとデリラ」より
「パッカナール」
オネゲル パシフィック 21
(交響的運動第1番)
ライヒェ トロンボーン協奏曲第2番
チャイコフスキー 交響曲第6番「悲愴」
.....
指揮：関谷弘志・家宇治賢・渡辺正樹
独奏：呉 信一

第89回



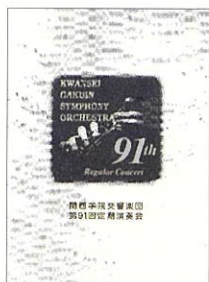
1997年6月14日
西宮市民会館アミティホール
.....
ベートーヴェン
歌劇「フィデリオ」序曲
ハイドン 交響曲第100番「軍隊」
ニールセン 交響曲第3番
(ひろがりの交響曲)
.....
指揮：家宇治 賢
独唱：溝口真知子 (Sop) 澤井宏二 (Bar)

第90回記念



1998年1月23日
尼崎アルカイクホール
.....
チャイコフスキー
バレエ音楽「眠りの森の美女」
マーラー
交響曲第1番
.....
指揮：手塚幸紀・家宇治 賢

第91回



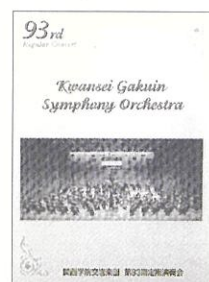
1998年6月24日
尼崎アルカイクホール
.....
ロッシーニ
歌劇「ウィリアム・テル」序曲
レスピーギ
リュートのための古風な舞曲と
アリア第3組曲
ブラームス 交響曲第1番
.....
指揮：田中一嘉・家宇治 賢

第92回



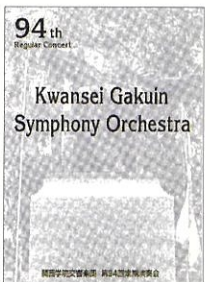
1999年1月10日
尼崎アルカイクホール
.....
チャイコフスキー イタリア奇想曲
ハチャトゥリャン
組曲「仮面舞踏会」
ブルックナー
交響曲第4番「ロマンティック」
(第2稿)
.....
指揮：田中一嘉・家宇治 賢

第93回



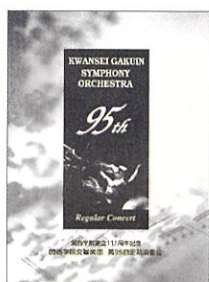
1999年6月25日
尼崎アルカイクホール
.....
シュトラウス
喜歌劇「こうもり」序曲
リスト 交響詩「前奏曲」
ドヴォルジャーク 交響曲第8番
.....
指揮：関谷弘志・吉田周平

第94回



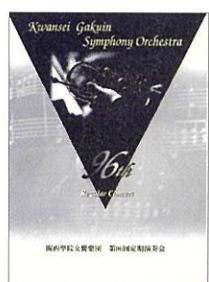
2000年1月16日
尼崎アルカイクホール
.....
シューベルト
劇音楽「ロザムンデ」序曲
ドリーブ バレエ音楽「シルヴィア」
チャイコフスキー
交響曲第5番
.....
指揮：金 洪才・吉田周平

第95回



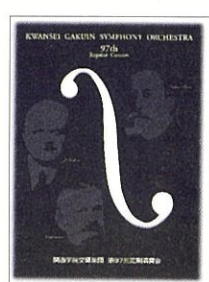
2000年6月28日
尼崎アルカイクホール
.....
シベリウス
交響詩「フィンランディア」
ボロディン
歌劇《イーゴリ公》より
「序曲」と「だったん人の踊り」
ブラームス 交響曲第2番
.....
指揮：藏野雅彦・井手口彰典

第96回



2001年1月14日
尼崎アルカイクホール
.....
ニールセン ヘリオス序曲
マスネー
アルザスの風景(管弦楽組曲第7番)
ラフマニノフ 交響曲第3番
.....
指揮：藏野雅彦・井手口彰典

第97回



2001年6月27日
尼崎アルカイクホール
.....
サン＝サーンス
交響詩「死の舞踏」
グラズノフ 組曲「バレエの情景」
シベリウス 交響曲第2番
.....
指揮：田中一嘉・神前 喬

第 98 回



2002 年 1 月 19 日
尼崎アルカイックホール

サン＝サーンス
歌劇「サムソンとデリラ」より
「バッカナール」
プロコフィエフ
バレエ組曲「ロメオとジュリエット」より
ブルックナー 交響曲第 5 番
指揮：田中一嘉・神前 喬

第 99 回



2002 年 6 月 30 日
尼崎アルカイックホール

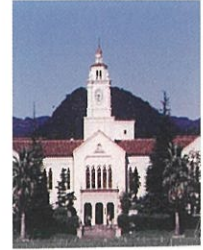
ムソルグスキー
交響詩「禿げ山の一夜」
シベリウス 組曲「カレリア」
ドヴォルジャーク
交響曲第 7 番
指揮：藏野雅彦・津田卓哉

第 100 回記念(創部 90 周年記念)



2003 年 1 月 25 日
ザ・シンフォニーホール

ブラームス 「大学祝典序曲」
ブラームス
ハイドンの主題による変奏曲
ラフマニノフ 交響曲第 2 番
指揮：下野竜也・津田卓哉



第90回記念関西学院交響楽団定期演奏会 1998.1.23 アルカイックホール

定期演奏会 100 回の作曲家・曲目ランキング

作曲家登場頻度ランク			曲目取り上げ頻度ランク	
作曲家名	登場回数	作曲家	曲目	取り上げ頻度
1. ベートーヴェン	58	1. ベートーヴェン	「エグモント」序曲	8
2. チャイコフスキー	22	ベートーヴェン	交響曲第 3 番「英雄」	8
モーツァルト	22	2. ドヴォルジャーク	交響曲第 8 番	7
3. ドヴォルジャーク	18	ブラームス	交響曲第 1 番	7
4. ブラームス	17	3. ベートーヴェン	交響曲第 5 番「運命」	6
5. シベリウス	13	ベートーヴェン	交響曲第 8 番	6
6. シューベルト	11	チャイコフスキー	交響曲第 5 番	6
7. ロッシーニ	8	ドヴォルジャーク	交響曲第 9 番「新世界より」	6
8. ハイドン	8	4. ベートーヴェン	交響曲第 1 番	5
メンデルスゾーン	6	シベリウス	交響詩「フィンランディア」	5
ビゼー	6	ロッシーニ	「セビーリャの理髪師」序曲	5
グリーク	6			
サン＝サーンス	6			

—100 回の定期演奏会を振り返って—

オーケストラの歴史はコンサートの歴史そのものですが、ここに示された第 1 回から第 100 回まで 50 余年の記録はまさに様々な事柄を語りかけてくれています。第 10 回から第 90 回まで 10 回ごとの節目には、通常“記念”定期演奏会として、限られた 4 年間の学生生活の中でたまたま遭遇した節目を乗り越えることの特別な感慨が込められています。しかし、第 30 回と第 40 回の演奏会では過去の定期演奏会がまとめて記載されているものの特に“記念”とは銘打たれてはいません。第 20 回ときは手元にはありませんが別冊として記念文集が出されています。また、創部からの節目を“記念”としているのは、第 24 回の 50 周年、第 42 回の 60 周年、第 62 回の 70 周年で、1993 年はこの年に第 80 回記念と重なったため創部 80 周年は軽く流されています。創部 40 周年の 1953 年には第 5 回と第 6 回が開催されていますが、記念定期演奏会とされていないのは恐らく未だようやく軌道にのってきた初期の段階であったためと思われる。ただ、創立の年代そのものが大正 2 年、大正 5 年、極端には大正 15 年としているときもあって、その時代によって歴史解釈が統一していなかったのは残念であります。手に入る学院歴史資料から判断すると、2001 年 9 月発行の「関西学院事典」に記載されている“大正 2 年(1913)”説が正しいと思われるので、改めてこれを統一の創立年代とし、今後の参考にしたいと思います。

定期演奏会は第 1 回から春秋 (5~6 月と 11~12 月) 年 2 回となっていますが、昭和 30 年(1955)は春の第 9 回、秋の第 10 回記念演奏会共に神戸、大阪の 2 回公演を行っています。また、昭和 31 年(1956)は 12 月に開催した「メサイア」演奏会のため秋の定期をジャンプし、昭和 38 年(1963)は 12 月に開催した“創部 50 周年記念第 24 回定期演奏会”で初の大曲、ベートーヴェン・第 9 交響曲を採りあげたため、春の定期をとばしています。(第 9 交響曲は第 48 回と第 68 回にも採り上げられている)

また、昭和 41 年(1966)は 6 月に、わが部第 3 回目の慶応ワグネルとの合同演奏会を東京文京公会堂で実現したために春の定期が割愛されています。

さらに、昭和 44 年(1969)は、当時“はしか”のように全国に蔓延した“大学紛争”に学院ものみこまれてピークに達していた年でやむなくこれも春の定期をジャンプしています。ただ、阪神・淡路大震災直後の 6 月の第 85 回の演奏会は当初の西宮市民会館アミティホールが被害を受けて使用できなかった上に幾多の困難があったにも拘らず開催できたこと、そして、一人の怪我人もなかったことは幸いでありました。従来なら平成 3 年(1991)秋に開催されるはずの第 78 回定期演奏会が翌年の 1 月に開催されており、その後、秋の演奏会が 1 月に開催されるケースの方が多くなってきています。

制度上で特筆すべきは、戦前戦後の時代からどのような演奏会でも学生指揮が常識でありましたが(第 14 回定期だけは例外で、練習に入る直前になって、決定していた学生指揮者・南村 初氏が急病で倒れ、他に誰もするものがなく当時神戸アメリカ文化センターオーケストラで指揮をされていた昭和 28 年卒・野村陽児氏<後に宝塚歌劇団へ>に急遽客演を依頼しました)、昭和 43 年(1968)11 月第 33 回定期から常任指揮者制を採り入れ、卒業直後の武藤俊介氏がこれにあたりました。武藤氏が第 38 回を終えて去った後は、第 39 回から 58 回まで現在の顧問・畑 道也教授が常任指揮を務められています。因みに、畑 道也顧問教授は定期だけで 23 回と最多の指揮者であります。畑先生の後が、ついに湯浅卓雄を初めとするプロの客演指揮者達の登場であります。この指揮制度の流れは、社会の変化に応じて経済事情が個人、楽団共に向上したのと、音楽的により高度のものを求めたいという学生達の心情によるものでありましょう。(TK)

100 回の舞台に登場した指揮者たち

学生指揮者	Main	Sub	学生指揮者	Main	Sub	客演指揮者
野村陽児 (昭和 28 文卒)	1~4	...	遠藤春生 (昭和 55 経卒)	...	53	湯浅卓雄 59~61, 68, 70
	客演 14	...	北村貫志 (昭和 55 文卒)	...	54	72, 74, 76
尾河原明二郎 (昭和 29 文卒)	5, 6	...	北淵喜樹 (昭和 56 経卒)	...	55, 56	堤 俊作 62, 63, 65
牧野泰宣 (昭和 31 経卒)	7, 10	...	八橋 圭 (昭和 57 社卒)	...	57, 58	大友直人 66, 67, 71
西村順吉 (昭和 32 文卒)	11	...	守谷祐一 (昭和 58 商卒)	...	59, 60	佐渡 裕 69
須山雄二 (昭和 33 商卒)	12, 13	...	芹生幸一 (昭和 59 法卒)	...	61, 62	現田茂夫 73, 78, 80, 82
小川浩二郎 (昭和 36 文卒)	15~19	...	其浦宏幸 (昭和 60 文卒)	...	63, 64	岡田良機 75
田中彰寛教授	20	...	杉原 直 (昭和 61 社卒)	...	65, 66	田中一嘉 77, 81, 83, 86
小杉雅美 (昭和 37 経卒)	...	20	中村晃之 (昭和 62 社卒)	...	67, 68	91, 92, 97, 98
畑 道也 (昭和 39 文卒)	21~24	...	吉田 徹 (昭和 63 文卒)	...	69, 70	岡本和之 79
	常任指揮 39~58	...	二瓶竜史 (昭和 1 経卒)	...	71, 72	藏野雅彦 84, 95, 96, 99
前堀達男 (昭和 41 経卒)	25~28	...	毛利秀明 (平成 2 法卒)	...	73, 74	藤崎 凡 85
武藤俊介 (昭和 43 文卒)	29~31	...	稲田丈二 (平成 3 文卒)	...	75, 76	竹本泰蔵 87
	常任指揮 33~38	...	久保秀彰 (平成 4 文卒)	...	77, 78	関谷弘志 88, 93
前川好正 (昭和 44 経卒)	32	31, 33	杉本 賢 (平成 5 社卒)	...	79, 80	手塚幸紀 90
舛田政彌 (昭和 45 商卒)	...	34	樋口 博 (平成 6 文卒)	...	81, 82	金 洪才 94
大倉隆二 (昭和 46 文卒)	...	35, 36	本石智弘 (平成 7 法卒)	...	83, 84	下野竜也 100
北村明男 (昭和 47 文卒)	...	35, 37, 38	江嶋純吉 (平成 8 経卒)	...	86	
里井和之 (昭和 48 商卒)	...	39, 40	渡辺正樹 (平成 9 文卒)	...	87, 88	
衣川 光 (昭和 49 商卒)	...	41, 42	家宇治賢 (平成 11 文卒)	89	88, 90~92	
斉藤正和 (昭和 50 法卒)	...	43, 44	吉田周平 (平成 12 法卒)	...	93, 94	
楊 鴻泰 (昭和 51 商卒)	...	45, 46	井手口彰典 (平成 13 阪大)	...	95, 96	
井上 健 (昭和 53 法卒)	...	47, 48	神前 喬 (平成 14 経卒)	...	97, 98	
岩井啓次 (昭和 54 経卒)	...	49, 50	津田卓哉 (平成 15 法)	...	99, 100	
高橋敏文 (昭和 54 文卒)	...	51, 52				



プロフィール

指揮者 田中一嘉

1953年東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部卒業。指揮を故斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。コントラバスを江口朝彦、堤俊作の両氏に師事。

在学中より同大オーケストラ定期演奏会、オペラ公演等を指揮する。また、日本オペラ協会、長門美保歌劇団副指揮者、東京アカデミー合唱団の指揮者として、数多くのオペラ、合唱曲、特に宗教音楽分野での実績を積む。

1976年、第4回民音指揮者コンクールに入選、奨励賞受賞。桐朋学園大学卒業後は、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団、札幌交響楽団、大阪フィルハーモニー、群馬交響楽団、アンサンブル金沢等日本各地の主要オーケストラを指揮する。又、92年には、ヤナーチェク春の国際音楽祭にてヨーロッパデビュー。

95年にはカルロ・ヴェリ交響楽団を指揮するなど、その活躍は多岐に及んでいる。

88年より昭和音楽大学非常勤講師。

関西学院交響楽団創部90周年、そして第100回定期演奏会を心よりお祝い申し上げます。私と、このオーケストラとのお付き合いは1991年7月の第77回定期演奏会に始まります。以来、幾度となく指揮台に立たせていただき、その度に充実した時と共に、素晴らしい感動を味わうことが出来ました。

大学のオーケストラである以上、メンバーは常に替わってゆくわけですが、彼らの、音楽に取り組むひたむきな謙虚さ、音楽を愛する熱い想いは、毎回変わることなく、私はもとより、多くの聴く人の心を打つものでした。

このところ、彼らと接する機会も増し、理想を求めての彼らに対する要求は、以前より高くなったかもしれません。そんな、こちらの要求に彼らはいつも見事に応えてくれます。より一層深いものを目指しての努力は、練習の初日から本番まで、全くと言ってよいほど苦痛を感じさせません。

私にとってこのオーケストラとのかかわりは、なんとも楽しく、あたたかい気持ちにさせてくれます。そのような中で、次の第101回定期演奏会の指揮を仰せつかりました。文字どおり、次の100回への第一歩ということで、身に余る光栄と共に、責任の重さを痛感しております。歴史ある関西学院交響楽団の歩みの中で、微力ですが、こうしてお手伝い出来ることを無上の喜びとし、感謝するとともに、このオーケストラの、豊かで熱い響きが絶え間なく流れ続けることを心から願ってやみません。

2002.10.22 田中一嘉

インタビュー

朝比奈 隆

関学オーケストラの諸君から今回は色々角度をかえての誌上インタビューである。

先ずは「貴方の好きな曲」という事だが、これに対する答には、いくつかのカテゴリーがありそうです。先ず好きと尊敬、又は、畏敬という二つのニュアンスがあります。又、それ双方である場合もありましょう。例えばリヒャルト・シュトラウスとか、ワグナーとかチャイコフスキーとかは、最も好きな音楽の中に入ります。マーラー、ことに「さすらう若人の歌」や「大地の歌」のような一連の交響的歌曲は感動的なまでに好きです。アルトの低い歌声が、ewig……ewig（永遠に）と放心したようにつぶやき乍ら、オーケストラのかすかなさざめきの中に消えてゆく「大地の歌」の終末など、自分の心の中が空虚に成ってゆくような気さえます。「さすらう若人の歌」の終りの部分もそうです。ヴァイオリンが奏でる甘く美しい調べが、愛する人を失った青年の傷心と淋しさが痛い程私の心に伝わって来ます。

しかし、好きも尊敬もすべてを超えて偉大なのはベートーヴェンです。バッハが信仰の造型であり、モーツァルトが天上の理想であるならば、ベートーヴェンは「人間のすべて」です。人間の勇気も、弱さも、怒りも、よこごびも、愛も、悲しみも、すべてがあります。Lui tollis peccata mundi（地上のすべての罪を負った人）のように彼は全身全霊を以って音楽に於ける近代ヒューマンイズムの夜明けのために十字架に登ったのです。ベートーヴェンの九つの交響曲、弦楽四重奏曲を指揮したり、演奏したりする時程、私は自分を小さくみずばらしく、力のないものに覚える事はありません。しかし、それと同時に、自分も含めて人間というものがかいかに偉大で不滅で、そして崇高であることを感ずるのです。どうぞ諸君はその若々しい心を開いてむさぼるようにベートーヴェンの音楽をきいて下さい。諸君は満たされるでしょう。人間への自信と尊敬と、生きることの希望と勇気とに、そして更に愛と歓喜とに。

字数も残り少ないので、次のおたずねには極く短くしかお答え出来ません。オーケストラのメンバーである音楽家達の日常には、色々なことがあるでしょうが、一つだけとりあげる特質とえば、極めて僅かの自由しか持たないことです。先ず、仕事の時間については軍隊のようなきびしい規制があります。何日の何時から何時まで練習、又は本番、これには一分間の余裕も認められません。曲目は定められたプログラムが動かすことが出来ない課題です。演奏中はその奏法、運弓や指使いに至るまで、指揮者、或は、コンサートマスターの指示に従わねばなりません。坐る席次でも指揮者又は監督の定める処です。テンポ、強弱などの表現は、すべて指揮者の要求が絶対です。それではどこに「喜び」があるのでしょうか。まだ、その上に、ベルリンフィルハーモニーから大阪フィルに至るまでに経済的条件は他の音楽職業に比べてもまことに低いのです。しかし「喜び」はあるのです。ベートーヴェンや、ブラームスのような音楽をすべての自由をすべて、無私の心で信頼する指揮者の心一つに成って、一つの巨大な機械のように整然と動き、そして止った時、天啓のように彼等は生命に満ちた感動に酔い「喜び」は爆発するのです。その時すべては酬いられるのです。さあ、しかしそんな瞬間はそう度々はないかも知れませんね。

終りは、今日の学生のオーケストラについてですが、私達オールドOBは、よく「昔はよかった。今の奴等はたるんでいる」と云うのが得意ですが、学生音楽に関する限りどうも余り調子が出ません。先年私の母校京大の演奏会をきいて遂にカブトをぬぎ、「昔は……」云々は、取消しを宣言しました。確かに諸君はたくましく進歩しています。私はぬいだカブトを空高くほうり上げて、日本の音楽の未来の栄光を祝って乾杯したい気持ち一杯です。

どうか諸君、強く明るく、そしてねばり強くがんばって下さい。

このインタビュー記事は1965年12月6日の第28回定期演奏会に掲載されたものを転載しました

今からほぼ 50 年前のことになるが、当時、六甲の丘の中腹にチェリストの富田政雄先生が住んでおられた。先生は、第 2 次世界大戦よりも前の時代にロンドンの王立音楽院でチェロを学ばれ、卒業後も英国でチェロ奏者として活躍されたかたであった。

関学中学部の生徒であったころ、私は毎週、富田先生のお宅にうかがって、チェロの手ほどきをしていただいていたのだが、そこには関学交響楽団の大学生の面々が、やはりこの楽器を習いに集まっていた。その一人、岡芳輝氏が関学中学部の出身であったことから、私のクラス担任の先生に掛け合って、大学のオーケストラにエキストラとして加わる許可を特別にしてくださいました。それが、以後 50 年にわたる関学交響楽団とのつながりの機縁となったのである。

はじめて練習に参加した場所は芦屋の仏教会館であった。ジョージ・ガーシュウインのラプソディー・イン・ブルーやベートーヴェンの田園交響曲など、オーケストラのパート譜を弾くのは初めてであったので、なかなかついていけず、がっかりしてしまっていた。その日の練習が終わり、楽器を抱えて帰りかけると、背後から「ハタ、また来いよ」と指揮者の牧野泰宣氏の声がかかり、よし、それなら本気でやるぞ、という気持ちになった。

私が大学に入学する前後から、戦後に始まった鈴木鎮一の才能教育出身者が大学に入学してくるようになり、関学オーケストラにも、弦楽器群の合奏能力の向上を図る好機が訪れた。それまでは、もっぱら管楽器の上手な人たちの演奏が全体を引き立てていた感があったのである。弦楽器群の合奏力をオーケストラの土台に据えることができるようになって、このオーケストラの演奏は着々と高まり、充実した流麗な響きを生むようになった。

現役の際、当時の顧問の田中彰寛教授から再三にわたって、難曲大曲をやりすぎている、もっと身に合った曲を取り上げるべきではないかと注意されたのだが、この難曲大曲にチャレンジする気風は、すでに第 1 回の定期演奏会以来のこの学生交響楽団の特徴で、その時代ごとにいつも実力を超える曲目に挑み、いまやストラヴィンスキーやマーラー、ブルックナー、ラフマニノフなどに行き着き、いつも好ましい結果を生んでいる。

これからは上手な演奏を誇るだけにとどまらず、質の高い〈音楽〉を聴かせてほしい。

関西学院院長代理
関西学院大学文学部教授
関西学院交響楽団顧問

畑 道 也

1951 年（昭和 26 年）に第 1 回が始まり半世紀余りを経て今回第 100 回を迎えた。第 1 回から第 10 回まで出演した私にとって感慨もまたひとしおである。

戦後の混乱期から立ち直りつつあったとはいえ、まだまだ経済的にも豊かでなかった時代に、ほとんど現役の学生達だけの努力でよく定期演奏会を立ち上げたものである。当時の大学オーケストラは、どの大学でも各パートとも人員が不足していて演奏会ともなれば先輩方に出演してもらい、それでもまだ足りないパートには他大学からも応援してもらうというのが当たり前のことであった。今のように部員が増えて現役だけで充分各パートがまかなえる時代では想像もできない苦労があった。当時の演奏会は詰襟の学生服でステージに上がるようになっており、当日応援に来ていただいた先輩たちにも学生服に着替えてもらうためサイズの合う学生服を調達するのに苦労したものである。

私は第 1 回が始まったときはまだ関学高等部の 3 年生だった。高等部でブラスバンドをやっており、管楽器のパートが不足していた大学のオーケストラに引っ張られて高 1 の時から大学のオーケストラにも所属していたのである。（私の他にもう 1 名、辻妙珠君がいる）50 年以上も前のことであり、まだ高校生だったため、第 1 回を開催するについてあまり実質的に参画しなかったので記憶も定かでないが、当時の大学の 3 回生、2 回生の方達の、初めての定期演奏会を開催したいという意欲と奮闘ぶりだけは鮮やかに思い出すことができる。演奏会当日も現役全員で中央公会堂まで楽器運びをし、リハーサルまでの待ち時間にも淀屋橋付近や中之島公園で当日の切符売りをしたことを覚えている。この努力が定期演奏会がずっと今迄連続と続いてきた礎を築いたものと思われる。

この歴史ある定期演奏会の創世記ともいべき第 1 回から第 10 回まで、そのうち 7 回から 10 回までの 4 回を指揮台の上でステージに上がったことは私の青春時代の無上の思い出となっている。今後も、この 100 回まで積み重ねてきた多くの先輩達の志を継ぎ、後輩達がさらに 150 回、200 回と積み上げていってくれるものと確信している。

第 7 回～第 10 回指揮者・昭和 31 年経卒

牧 野 泰 宣

—『未完成』に包まれて—

20 世紀の日本史が「戦前/戦後」と分けられるように、僕らが学生時代を振り返るとき、それは「震災前/震災後」といった言葉で語られることがしばしばある。「あれ、地震の前のことやけど……」。やはり阪神・淡路大震災は、それほどまでに強烈な印象を放った出来事であった。

卒団したばかりの4回生も含め100余名、全団員の無事が確認できた地震から4日目に、僕は練習場を訪れた。激震地・西宮にあつて幸いにも建物に大きな損傷はなく、倉庫の棚こそ酷く歪んでいたものの楽器は皆無事だった。部室に至っては不思議と棚から物さえ落ちておらず、散らかっているといえ、それは単に行儀の悪さから来るいつもの光景だった。

亡くなった学生の中におおのの友人も含まれていた僕らは、3月18日に執り行われた大学合同慰霊祭での演奏を申し出た。学院校歌を3曲ほど叙情的な弦楽アンサンブルに編曲して『G線上のアリア』などと共に献花の儀で演奏し、楽団からの哀悼の思いを表した。

95 年前半期の予定はそれぞれに変更を余儀なくされた。意を決したドイツ演奏旅行の中止、憧れの元ベルリン・フィル団員W. テーリヒェン氏との自作『ティンパニ協奏曲』共演の中止、春の定期演奏会定番の会場であった、ホームグラウンドとも言うべき西宮市民会館の使用停止。それら全てを練習再開までに検討し、代案に向けて動いた。練習は2週間ほど遅らせた3月下旬、千刈キャンプ場での春合宿で再開された。満を持した、春の演奏会へ向けての練習開始。誰欠けることのない関西学院交響楽団の響きが食堂一杯に満ち、幾多の苦労はその喜びによって掻き消された。

これは地震の前の話だが、4回生が卒団した翌1月を僕は練習強化月間とし、次の定演と違った曲で練習を行っていた。「テンポがゆっくりで、互いの和音が確認しあえる曲を」とのトレーナーのアドバイスを受けて選んだのはシューベルトの交響曲『未完成』第二楽章。全5回の予定で組まれたその練習は2回目を終えたところで地震が起き、中断された。震災後、楽団未曾有の状況に対処するあらゆる行動の中で『未完成』は折にふれて頭に鳴り、シューベルトの優しく響く練習場が脳裏をよぎったと皆は言う。あのとき、再び日常的な練習を取り戻すことこそ僕らの何よりの優先事項だった。そして最後の練習の情景は、そのまま僕らの復興すべき目標の姿とされたのだった。

霧の中へ一筋の光が差し込むかのように始まる『未完成』第二楽章を耳にすると、今でも震災前の練習場に身を置いているかのような、懐かしい気持ちに包まれる。



